



愛知陸協広報

第47号

平成31年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0015 名古屋市中区大井町3-15 日重ビル2F

電話 (052) 684-7498 ファックス (052) 684-7499

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

全国都道府県女子駅伝 愛知が2度目の優勝



3年ぶり 2度目の優勝を果たした女子チーム (写真提供: 月間陸上競技)

第37回全国都道府県女子駅伝が1月13日に京都で行なわれ、愛知チームは着実にタスキをつないで、見事優勝を飾りました。



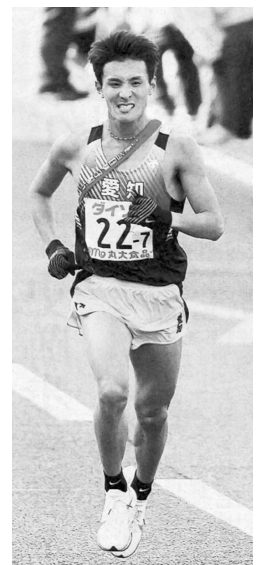
2区区間賞の藤中選手 (中日新聞)



フィニッシュする鈴木選手 (大会ホームページより)

他にも実業団 (ニューイヤー駅伝: トヨタ自動車3位・クイーンズ駅伝: 豊田自動織機6位)、大学 (全日本大学女子駅伝: 名城大学2連覇)、高校 (全国高校駅伝: 豊川高校男女入賞)、マスターズ (全日本マスターズ駅伝男子3連覇・女子2位) など、愛知の駅伝チームは大活躍をしています。

第24回全国都道府県男子駅伝も、急な選手変更のある中、見事7位入賞を果たしました。



11人抜きと大健闘した服部選手 (中日新聞)



平成30年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

平成30年度は愛知陸協にとって、3年前の全国都道府県対抗駅伝男女アベック優勝に続き、新たな歴史を刻む年となりました。女子が2度目の見事な優勝を飾ることができました。愛知県チームは高校生5名、実業団・中学生各2名の若い力が躍動し常にトップを伺う安定した力で堂々3年振りのVを成し遂げました。選手、スタッフの皆さんのご尽力に心より敬意を表します。平成最後の大会で優勝、来年は新元号最初の優勝を目ざし一層の飛躍の年になるよう期待しています。

昨年のジャカルタアジア大会では、男子棒高跳で山本聖途選手（トヨタ）が大会新で優勝、男子20kmWで山西利和選手（愛知製鋼）が2位。日本選手権大会では、男子円盤投で湯上剛輝選手（トヨタ）が日本新で優勝。棒高跳の山本聖途選手・男子ハンマー投の墨訓熙選手（小林クリエイト）がそれぞれ優勝しました。インターハイでは、中京大中京高が念願の女子総合優勝を達成いたしました。全日本中学では、男子1500mの吉居駿恭選手（田原東部中）・女子100mHの松本佳音彩選手（上社中）・女子4×100mR（上郷中）がそれぞれ優勝。全国小学生では、女子共通4×100mR（田原陸上クラブ）が優勝。若手の成長に益々期待が高まります。来年2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年です。地元から一人でも多くの選手が出場し、活躍することを願っています。

専門委員会報告

総務委員会

2019年の登録が3月4日から始まりしました。公認の陸上競技大会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録し、日本陸上競技連盟の登録会員にならなければなりません。手続きをお願いします。

変更点も有りますので、「登録要項」または、愛知陸協ホームページを参照して行なってください。なお、不明な点は、事務局（電話052-684-7498）までご連絡ください。

その年度の登録申請期間は、3月4日～11月30日（高校は10月31日）までです。

今年度の登録担当者・申請先（転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります）を掲載します。

一般団体・個人

名古屋	赤司 学	名古屋市千種区自由ヶ丘2-16-1 シティコーポ自由が丘303
尾張	門脇 良佑	尾北高等学校
西三河	山村 晃泰	安城東高等学校
東三河	山本 誠司	豊丘高等学校

大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-684-7498
-----	---------	--------------

高校生

名古屋北	小林 諭	山田高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
尾張	浜田 倫昌	津島北高等学校
知 多	成田 稔	武豊高等学校
西三河	小野田 基	三好高等学校
東三河	中村 昭広	豊橋工業高等学校

中学生（学校・クラブ・個人）

名古屋	三浦 雅史	豊国中学校
愛日・知多	釜下 隼亮	日進西中学校
尾 張	酒井 達哉	宮田中学校
西三河	細井 太郎	奥殿小学校
東三河	岡田 淳史	豊橋・南陽中学校

小学生友の会

名古屋	鶴飼 恭平	知多市巽が丘 4-288
尾 張	八代香津子	愛西市勝幡町字後田 397-2
西三河	小林 良博	岡崎市真伝吉祥 1-21-7
東三河	手嶋 修次	蒲都市緑町 16-19

（水野 隆夫）

競技委員会

多くの競技役員の方々に協力いただき、今年度も無事終えることができました。ありがとうございました。

2018年度シーズンも名古屋ウィメンズマラソンを最後に幕を閉じました。U20・U18の日本選手権も一区切りがつき、2019年度と2020年度はパロマ瑞穂スタジアム改築に向けて、競技会や競技内容等を検討していかなければならない年になります。

2019年度の競技も始まります。例年の競技会も多くあり、各地区の競技会を合わせると過密ダイヤの日程で1年が始まろうとしています。2026年のアジア大会に向けて、若い審判の方々に力を付けていただきたいと思います。ベテランの方のご指導の下、愛知陸協全体として力を合わせて行きたいと思っています。是非ご協力宜しくお願いします。

各競技会に関して要覧に出っていますが、変更があるときもあります。申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して間違いのないようにしてください。

愛知陸上競技協会では、協会主催の大会において、新ルールの適用を原則としています。しかし一部の大会で

クラブ紹介④ 十四山少年少女体育クラブ

十四山少年少女体育クラブは、愛知県西南部、金魚の産地として知られる弥富市十四山地区で活動する、小学生対象の陸上クラブです。有志の集まりから始まり、創部30年を超える歴史あるクラブです。

「せっかく練習しても、3日休んだら体は元に戻ってしまう。だから中2日以内で練習を続けよう。」という、クラブを立ち上げられた先生の信念のもと、発足以来、火・木・土曜日を練習日としています。この信念はクラブの根幹となり、今も受け継がれています。

どんな動きにも体が対応できるように、小学生のうちはいろいろなスポーツを経験したほうが良いとの考えで、ドッジボールや縄とびなども取り入れながら「走」中心の指導をしています。また、こどもたちが練習で一番輝いた表情を見せるリレー、そして鬼ごっこ。真剣に競走したり、大きな声で応援したり、仲間と走ることを心から楽しみながら自己ベスト更新、県大会入賞を旨として、日々頑張っています。

現在のクラブ員は約40人です。小学1～6年生まで一緒に同じメニューに取り組んでいます。低学年はできないことを高学年に教えてもらい、またOB・OGが練習に来

てくれた時は、高学年が彼らの走りに刺激を受け、それを吸収して低学年に教える。小規模ならではの環境で、縦の繋がりを大切にし、人間性・社会性も自然に高めていけると思います。

私たちの地域は、児童数も少ないうえ、陸上部が無い学校も多いため、陸上競技自体あまり浸透していないように感じられます。広く地域のこどもたちを受け入れ、体力向上、心身の成長の一助となり、一人でも多くの子に陸上競技の楽しさを知ってほしいと思います。

この冬にユニフォームを新調しました。こどもたちの笑顔とともにその頑張りに期待しています。(山本 一彦)
(連絡先: jyushiyama_club@yahoo.co.jp)



ユニフォーム新調しました！



蟹江町駅伝にて
皆がんばりました！

は、特別なルールを適用する事もあるので大会要項や競技注意事項で確認をしてください。

一年を通して、愛知では国際的、全国的な大会や東海大会から小学生の競技会まで幅広く陸上競技が行なわれています。多くの競技者が出場し、それを支える競技役員、競技補助員によって競技会が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよりよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。(榑原 茂)

施設・用器具委員会

1 検定関係の報告

(1) 名古屋ウィメンズマラソンコース一部変更検定(1月13～14日)
道路工事終了と工事開始の2カ所があり、20km～30km区間を自転車計測をしました。

道路コース計測員: 苅込(A級) 桑原(B級) 平川(C級)、愛知陸協: 青木検定員・南技術役員、砂子間・吉越施設用器具委員、マラソン事務局、県警本部の協力を得て無事終わりました。計測の結果3.65m長い分を第2折り返し(康成通り2)で調整しました。

(2) 至学館大学陸上競技場第4種一部変更再検定(1月20日) 平川技術役員(青木検定員補助)

テークオーバーゾーンの位置の変更(マーキング、標識タイル)と前回検定時に指摘した走幅跳の踏切板と助走路の不具合の修正後の検定をしました。

(3) ウェーブスタジアム刈谷第3種公認継続検定(2月9～10日) 青木検定員・南技術役員

トラック等の全天候舗装の全面的改修でした。私も長年検定に携わって来ましたが、初めての体験と言ってもいいほど検定員指摘事項が多く、改善をお願いしました。先日本部の委員会から公認保留の通知が届き、「改善されるまで、公認大会を開催できない」と再検定となりました。



ウェーブスタジアム刈谷 継続検定

(4) 一宮第3種公認継続検定(2月11日) 青木検定員・南技術役員

トラック等の全天候舗装の全面的改修でした。



県営一宮総合グラウンド 全面改修検定

(5) 知多運動公園陸上競技場一部変更検定(3月予定) 青木検定員

テークオーバーゾーンの位置の変更(マーキング、標識タイル)の修正検定

(6) 瑞穂公園第1種・IAAFクラス2公認継続検定(3月15～17日)

日本陸連：高木委員長、福島副委員長、米岡委員
愛知陸協：青木検定員、平川・南技術役員

日本では、5年に1回公認継続のための検定が義務付けられていますが、IAAF認証はこれまで有効期限は無く、認証は永続的に継続となっていました。2016年に、認証後5年で再申請を義務付けることになり、2019年1月1日から施行されることになりました。ちょうど今回瑞穂が該当し、第1種公認と同時にクラス2の検定を実施しました。

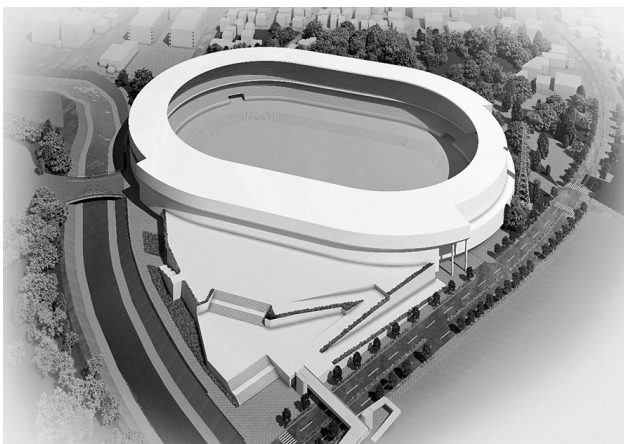


瑞穂競技場「IAAFクラス2」検定
1マイルスタートからオープン合流地点を光波で測定

2 アジア大会に向けて瑞穂公園陸上競技場改築について

2019年1月31日(木)13:30～15:30に名古屋市教育委員会室で会議が開催されました。愛知陸上競技協会(稲垣・青木)、愛知県サッカー協会(徳田)、名古屋グランパスエイト(清水)事務局：名古屋市教育委員会生涯学習部(近藤・長町・佐藤・加藤・稲田)、オブザーバー：名古屋市教育スポーツ協会(柴本)、司会：パシフィックコンサルタントが参加しました。事前に競技団体で作成した回答をまとめたワークシートを基に、基本設計について競技団体から意見要望を出して、全体の理解を深める場と位置づける会議になりました。

その後、教育委員会スポーツ振興課と各団体で個別に話し合い、2019年度に瑞穂公園全体計画の策定と業者選定の予定です。



瑞穂競技場 アジア大会常設3万席案のイメージ図
(青木 実)

審判委員会



ウィメンズマラソン救護所説明会の様子 3/3

平成30年度の愛知陸上競技協会の行事も、各地区の審判伝達講習会を最後に無事終了いたしました。全ての行事を予定通り終了できたのも、多くの大会に競技役員としてご協力いただきました皆様のおかげと感謝申し上げます。

昨年名称変更となった「U20・U18日本選手権」は本県開催が今年度最後となりました。昨年まで好記録が続出した大会の最後に相応しく、U20男子110mJH・U20女子棒高跳の2種目にU20日本記録、さらにU20で男子2種目、女子6種目、U18で男子5種目、女子2種目の大会記録が誕生しました。さらに、招待いたしました女子4×100mRで愛知県中学記録も誕生しました。大会運営に関わった人数は、競技役員が東京オリンピックのNTO研修で参加いただきました日本陸連関係役員を含め3日間で延べ1013名、補助員としてお手伝いいただきました高校生が607名でした。改めてご協力に感謝いたします。

その後も多くの大会が開催されました。一部の大会においては競技役員を集めるのに苦労した大会もありました。その原因の多くは、大会や陸上競技に関する行事が同時開催されているということでした。開催時期や方法等の一考が必要かと思いました。また、競歩競技等特殊な種目の審判員の育成も急務と感じました。2019年度には競歩審判講習会等も考えていきたいと思っています。

また、「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」は、654名の審判員が参加しました。ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

B級審判資格講習会は今年度も多くの方が受講されました。結果として、前期38名、後期25名、合計63名の方が2019年度より審判員として活動されます。大会等での指導よろしくをお願いします。

今年度のS級昇格対象者として尾張の大竹幹雄様、名古屋地区の葛谷五彦様、西三河の羽根田直基様、東三河の安藤康俊様を推薦いたしました。2月に開催されました全国競技運営責任者会議の席におきまして、4名全員の昇格を確認してまいりました。おめでとうございます。更なるご活躍をご期待いたします。

最後になりますが、2019年度もより多くの審判員の皆様の協力をお願いいたします。本年度は有難うございました。
(櫻井 一美)

選手強化委員会

皇后盃第37回女子・天皇盃第24回男子
都道府県対抗駅伝大会報告

平成31年1月13日(日)女子駅伝が京都で、翌週20日(日)男子駅伝が広島で行なわれました。どちらもインフルエンザによる選手変更を余儀なくされ、チームワークを試される大会となりました。昨年女子が9年連続の入賞を果たしたチーム愛知。県民のみなさんの期待は、3年前のアベック優勝の再現であったことでしょう。エントリー段階でのランキングは女子は優勝を、男子は3位以内かという位置でした。女子チームについてはチームワークを発揮し、1区荘司麻衣選手(デンソー)がトップと17秒差の9位という頑張りを見せてくれ、良い流れで2区藤中佑美選手(光ヶ丘女子高)に襷を繋いでくれました。3年連続出場の藤中選手はその経験を生かし、区間1位(8人抜き)の快走を見せ、早い段階でのチーム愛知の流れとなりました。それぞれの区間で監督・部長の指示をきっちり守り、しっかりと役目を果たしてくれ、アンカー鈴木亜由子選手(日本郵政グループ)へトップと2秒差の2位で襷を繋いでくれました。日本を代表する愛知の絶対的エースは、2位京都に1分以上の差をつけ見事2度目の優勝を果たしてくれました。さらに連続入賞記録を10に伸ばし、平成最後のチャンピオンというおまけ付きでした。愛知は強いと、各県スタッフ・沿道の駅伝ファンから声が聞こえるほどの印象も与えたようでした。

一方、男子は昨年13位という悔しい結果に終わっており、今年にける思いはかなり大きなものでした。こちらも1区中倉啓敦選手(愛知高)がトップと17秒差の18位で、2区吉居駿恭選手(田原東部中)に襷を繋いでくれました。吉居選手は区間6位、3区山口浩勢選手(愛三工業)は区間7位の頑張りを見せ、5位という流れに乗せた展開に入っていました。その後4区・5区では、現地入りしてからの区間変更等により選手たちが力を出し切れず、17位まで後退してしまいました。6区鈴木将矢選手(逢妻中)は前日の夜選手変更を告げられ、緊張で眠れない夜を過ごしたであろう中、持ち味を十分発揮して7区服部勇馬選手(トヨタ自動車)へと襷を繋ぎました。こちらも鈴木選手同様、日本を代表する愛知の絶対的エース。先日の福岡国際マラソン優勝の走りを、広島で再現してくれました。7キロ過ぎから前を行くチームを次から次へと抜き去り、11人抜きの7位でゴールをしてくれました。『神様・仏様・服部様』そんな言葉を心の中で叫んでいました。ただ今回の結果から、選手はもちろんスタッフも来年に向けての課題をしっかりと持ち、ゴールと同時にすでに来年度再度優勝に向けて動き出しました。

女子第37回・男子第24回チーム愛知の選手および成績は次のとおりです。

女子チーム 優勝 2時間15分43秒(愛知県新記録)

※3区 阪井 空 9分17秒(愛知県新記録)

区間	氏名(所属)	記録	区間順位	通過順位
1区	荘司 麻衣(デンソー): F	19.41	9位	9位
2区	藤中 佑美(光ヶ丘女子高)	12.43	1位	1位
3区	阪井 空(水無瀬中)	9.17	3位	2位
4区	古川 璃音(豊川高)	13.13	6位	1位

5区	永井 美希(豊川高)	13.28	2位	2位
6区	山本 有真(光ヶ丘女子高)	12.59	6位	1位
7区	小笠原安香音(安城学園高)	12.35	3位	1位
8区	林 那優(豊川一宮中)	10.39	17位	2位
9区	鈴木亜由子(日本郵政グループ): F	31.08	2位	1位

F:ふるさと選手



2度目の優勝を飾った女子チーム愛知のメンバー

男子チーム 第7位 2時間21分26秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位	通過順位
1区	中倉 啓敦(愛知高)	20.49	18位	18位
2区	吉居 駿恭(田原東部中)	8.44	6位	10位
3区	山口 浩勢(愛三工業)	24.27	7位	5位
4区	近藤幸太郎(豊川工高)	14.51	26位	9位
5区	大上 颯麻(豊川高)	25.46	30位	17位
6区	鈴木 将矢(逢妻中)	8.59	19位	18位
7区	服部 勇馬(トヨタ自動車)	37.50	2位	7位



チームワークで勝ち取った7位入賞の男子のメンバー

本年度も両大会において、愛知県人会の皆様から大会期間中たくさんのお励みとご厚情を頂きました。愛知陸協からも沿道・スタンドから熱烈な応援を頂き、選手・スタッフ共々感激いたしております。

大会関係各位、ご配慮頂いた所属チームの皆様方、愛知陸協応援団の皆様には、深く感謝するとともにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。来年度に向け、一層の結束と強化を推進して参ります。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(明星 光信)

学校訪問③⑦ 竜海中学校 全日中男子駅伝県代表

今回は、今年度の全日中男子駅伝に県代表として出場した岡崎市立竜海中学校を訪問しました。例年この時期は、全日中の駅伝代表校の男女いずれかの学校を取材させていただくのですが、竜海中学校は駅伝ばかりでなく、トラック&フィールドの部でも活躍をしております。その最たるものは昨年度的全日中女子4×100mRでの全国制覇です。高野景子・土居心愛・手島美咲・土居幸愛のメンバーが48'69のタイムで優勝しています。部全体として好成绩を収めているのですから、それに見合うだけの何かがあるのだろうと、休日土曜日の練習を取材しました。

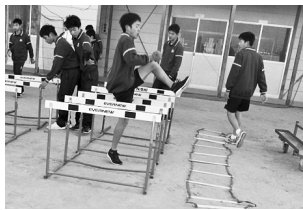
出掛けてまず目についたのは、練習を見守る先生方の人数でした。男性2人、女性も2人おられたのです。副顧問の山本浩司先生のお話では、もう一人男性の顧問がおりますとのことでした。この日は4名でしたが、普段は主顧問の瀧 将太先生、副顧問の山本先生、新實弘章先生、森 綾子先生、杉本 葵先生の5人で生徒の指導に当たっておられます。竜海は全校生徒が900名を越える規模の大きい学校だそうで、教員数も多いから手厚い配置ができるのだと山本先生はおっしゃっていました。前回取材した上郷中学校も外部コーチを含めると5人という指導者でしたが、校内の先生だけで5人というのは恵まれた体制だと言えます。普段から手厚く、細やかな指導がなされている結果の好成绩なのでしょう。

練習が始まってから印象に残ったことをいくつか紹介しておきます。

一つ目は、声がよく出ていたことです。「流し一本目行きまーす」「ハーイ」などと先頭に立つキャプテンだったのでしょうか。それに他の部員たちが呼応していて、部としてのまとまりがあるというか、一体感があるなあと強く思いました。それだけではなく「一本目行きます」の後に、例えば「ピッチを意識して行きましょう」といった声掛けもありました。トレーニングが主体的なものになっているなという思いもしました。クーリングダウンの際には「最後まで頑張って行きましょう」「元気出して行きましょう」「声出して行きましょう」と練習全体を通して、よく声が出ていました。一体感は何にも見受けられました。それは、お揃いのTシャツです。以前の取材でも感じたことですが、強い学校には必ずと言っていいほどのお揃いのTシャツが存在していました。竜海中もご他聞に漏れずというわけです。



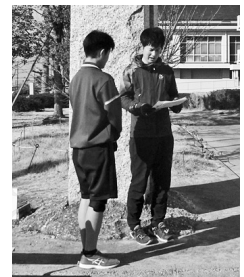
お揃いのTシャツ



充実した基礎トレーニング

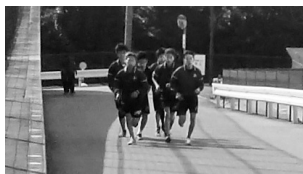
二つ目は、基礎基本の練習にける時間の長さです。練習の開始は8時。ミニハードルを使ったドリルやハードルを使った補助トレーニングが終わったのは、9時20分ぐらい。一時間以上が基礎基本のトレーニングに当てられていました。全員がその間休みなく、ドリルの種目をこなしていました。ハードルを使った補助トレーニングでは十分な動きができていない部員も見受けられましたが、できない動きを習得していく中で発達が得られるものです。短距離も中距離も基礎基本は同じことですから、顧問の先生方の方針に納得するばかりでした。

基礎基本の後に種目別の練習が行なわれたのですが、ここに一つの工夫がありました。B5版ほどの大きさのホワイトボードが何枚も姿を現したのです。何かと思っていたら、部員一人ひとりが個々の練習内容を書き込んでいったのです。顧問の先生方は「種目別という名のフリー練習」と言っておられましたが、選手の主体性を育む一つの手法ということなのだろうと受け止めました。その中ではこんな光景も目にしました。瀧先生がA4版のプリントを手にして生徒とやり取りをしておられました。何かと覗かせていただくと、長距離グループの選手たちが目標記録やこれからどうしていくかといったことを書き込んだものでした。短時間でしたが、瀧先生は一人ひとりに対応しておられました。これも部員の主体性を高める手法だと思いましたし、顧問の先生方の目が行き届いているなどの思いも強く持ちました。



行き届いた目配り

種目別に分かれたところで一つ気がついたことがありました。それは、「地の利」です。竜海中は高台にあるため、校内に高低差が存在しています。それが恰好のトレーニング場になっているのです。グラウンドの周りには緩い坂道があり、それを囲んでいるフェンスの外側には急勾配の坂道が存在しています。短距離グループは、そこで坂ダッシュを繰り返していました。瀧先生に案内していただいたのですが、坂の一番下から体育館を回るとそこには裏門から続く下りの坂道がありました。扉が閉まっていたのでこの日は全コースを確認することができませんでしたが、瀧先生によればこの坂道を利用すると大きな高低差を含んだ1キロほどの周回コースになっているとのことでした。このコースを利用していれば、自然と力がついていくだろうと、濃尾平野のただ中にある学校に勤めている私には羨ましい限りでした。まさに「地の利」です。



地の利一坂道

ただいいことづくめでないようでして、働き方改革の一環として朝練が廃止となったり、冬場は日課を変更して3時55分から部活動を開始してはいますが下校時刻が4時30分で、20分ほどしか練習時間がないといった問題も抱えています。また、高台にあるがために強風が吹いて砂ぼこりが舞い、練習に不都合が生じることもあるのだそうです。地の不利といったところでしょうか。これに対しては走る方向を変えたり、校舎周りの風が当たらないコースを走ったりして対処しておられるとのことでした。他にも不都合はあるのですが、5人の顧問の先生方のお知恵で乗り越えていってられるのでしょうか。

(取材文責・写真 大西敏功)

記録・情報処理委員会

○2018年(1/1～12/31)に樹立された新記録・タイ記録
(紙面の関係で最高のみ掲載します)

一般男子

3000m	7.54.73	服部 弾馬 (トーエネック)	
		[ゴールデングランプリ (長居)	5.20]
10km	28.46	服部 勇馬 (トヨタ自動車)	
		[ウスティハーフ途中 (チェコ)	9.15]
10マイル	45.57	藤本 拓 (トヨタ自動車)	
		[甲佐10マイル (甲佐)	12.2]
マラソン	2.07.27	服部 勇馬 (トヨタ自動車)	
		[福岡国際 (福岡)	12.2]
100km	6.09.14	風見 尚 (愛三工業)	
		[サロマ100kmウルトラ (北見)	6.24] ※世界最高
10000mW	39.27.04	山西 利和 (愛知製鋼)	
		[全日本実業団 (長居)	9.22]
20kmW	1.19.17	及川 文隆 (東洋大)	
		[日本選手権20kmW (六甲)	2.18]
円盤投	62.16	湯上 剛輝 (トヨタ自動車)	
		[日本選手権 (山口) 6.24] ※日本新	

一般女子

100m	11.43	市川 華菜 (ミズノ)	
		[布勢スプリント (布勢) 6.3] ※タイ	
10km	32.09	福田 有以 (豊田自動織機)	
		[全日本実業団10km (山口) 2.11] ※タイ	

男女混合

4×400mR	3.34.03	愛知高校選抜	
		(野瀬 大輝・平野 瑞希・真鍋 綾奈・佐藤 良維)	
		[日本選手権リレー (北九州) 10.27] ※新種目	

U20 女子

800m	2.05.68	細井 衿菜 (中京大中京)	
		[日本選手権 (山口) 6.23]	
棒高跳	3.90	塩崎 泉 (至学館高)	
		[東海選手権 (草薙) 8.25]	
七種競技	5065	伊藤 桃子 (中京大中京高)	
		[愛知高校総体 (瑞穂) 5.19]	

高校男子

300mH	36.40	伊奈 颯太 (豊川)	
		[全国高校選抜 (長居第二) 8.26]	
棒高跳	5.10	榊原 圭悟 (岡崎城西)	
		[愛知選手権 (瑞穂) 7.15] ※タイ	

高校女子

800m	2.05.68	細井 衿菜 (中京大中京)	
		[日本選手権 (山口) 6.23]	
1000m	2.55.73	細井 衿菜 (中京大中京)	
		[中京大土曜競技会 (中京大) 2.17]	
棒高跳	3.90	塩崎 泉 (至学館)	
		[東海選手権 (草薙) 8.25]	
七種競技	5065	伊藤 桃子 (中京大中京)	
		[愛知高校総体 (瑞穂) 5.19]	

男女混合

4×400mR	3.34.03	愛知高校選抜	
		(野瀬 大輝・平野 瑞希・真鍋 綾奈・佐藤 良維)	
		[日本選手権リレー (北九州) 10.27] ※新種目	

中学男子

300m	36.97	高橋 遼将 (TSM)	
		[名古屋地区競技会 (瑞穂) 3.21]	
110mH	13.96	高橋 遼将 (柏原)	
		[東海中学総体 (長良川) 8.9]	
110mJH	14.58	高橋 遼将 (TSM)	
		[ジュニアオリンピック (横浜国際) 10.14]	

中学女子

300m	42.37	青山 理奈 (御幸山)	
		[名古屋地区競技会 (瑞穂) 3.21]	
100mH	13.81	松本佳音彩 (上社)	
		[東海中学総体 (長良川) 8.9]	
100mYH	13.80	松本佳音彩 (上社)	
		[国民体育大会 (福井) 10.7]	
4×100mR	46.72	愛知選抜	
		(田島 七里香・飯田 真衣・沖 美月・倉橋 美穂)	
		[ジュニアオリンピック (横浜国際) 10.14]	
単	47.65	上郷	
		(曾我 日蒼・久野 香奈・沖 美月・倉橋 美穂)	
		[U18日本選手権招待 (瑞穂) 10.21] ※(単)	

中学混合

4×400mR	3.42.71	TSM	
		(中西 楓夏・柱木 大和・神田 彩名・上村 勇輝)	
		[名古屋市小中競技OP (瑞穂) 11.4]	
単	3.46.92	御幸山	
		(椋尾 三太郎・須崎 理奈・青山 理奈・桐山 誠二郎)	
		[名古屋地区通信OP (瑞穂) 6.17]	

県最高 (外国人)

10km	27.52	R・C・ケモイ (愛三工業)	
		[CZ Tilburg 10マイル (オランダ) 9.2] ※途中	
ハーフマラソン	1.00.21	N・コシンベイ (トヨタ自動車)	
		[Meia Maratona de Lisboa (ポルトガル) 3.11]	

小学生最高記録

男子

5年80mH	12.79	高島 悠生 (TSM)	
		[愛知小学生選手権 (瑞穂) 10.27]	

女子

6年100m	12.68	佐藤 俐有 (田原陸上クラブ)	
		[愛知小学生選手権 (瑞穂) 10.27]	

男女混合

5年4×100mR	53.47	安城ジュニア	
		(山岸 未来・神谷 朱里・服部 仁弥・小野 真大)	
		[愛知小学生選手権 (瑞穂) 10.27]	

(石鎚 一則)

女性委員会

愛知県レディース陸上競技大会は、2018年度の第15回で大会を終了することとなりました。10年前の2008年に愛知県でも開催された「全国レディース陸上競技大会」が2009年の大会を最後に終了となりましたが、県レディース陸上競技大会は多くの皆様のお力で大会を続けていただいております。大会運営にお力を頂いた多くの皆様と大会に参加していただいた多くの女性アスリートの皆様、本当にありがとうございました。そして何より、第1回大会から全大会に大会協賛していただいたミルクキーウェイ様には心から感謝いたします。毎年、全種目の優勝者にとってもかわいい花束を提供していただきました。花束を持った選手の表彰台での笑顔はとても素敵で、レディース大会ならではの表彰式となっております。



「ミルクキーウェイ様」に感謝

昨年引き続き女性指導者の為のコーチング・クリニック(第25回JAAFコーチング・クリニック)が2019年2月10日に広島県で開催されました。全国から52名の参加があり、愛知県からも4名参加でした。午前中は短距離・棒高跳・投てきの実技講習、午後は「女性特性(女性アスリートの三主徴)に関して」・「女性アスリート及び女性指導者の育成・強化」の2講習、「女性指導者活躍宣言」のワークショップに取り組みました。

女性だけとあって、実技も積極的にまた笑顔も多く見られ大変楽しく、ワークショップでは現場の声をたくさん聞けることもですが、仲良くもなれ何より交流がとても深まりました。今後も女性のクリニックが続けて開催されることを期待したいと思います。(谷 好美)

年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」48～50号編集計画(案)

号数	発行月日	編集内容
「愛知陸協広報」48号	7/31	<ul style="list-style-type: none"> ・会長のことば ・専門委員会報告及び今年度の活動方針 ・4地区の活動状況及び今年度の活動方針 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(マラソンフェスティバル、国体選考、国体春季選抜、東海学生、県マスターズ、県高校総体、日本選手権、県高校定通、東海高校総体、県・東海混成、小学生リレー等) ・理事会等会議報告 ・慶弔報告(協会会長表彰他)

「愛知陸協広報」48号	7/31	<ul style="list-style-type: none"> ・連載 ・ホープさん④ ・クラブ紹介④ ・学校訪問③ ・陸上競技場めぐり④
「愛知陸協広報」49号	11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(愛知選手権、県中学通信・県中総体、東海中総体、全日中、県ジュニア、県高校新人、U20・U18、国体、県小学生等) ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(全国高校総体、国体他) ・慶弔報告(秩父宮章他) ・連載 ・ホープさん④ ・クラブ紹介④ ・学校訪問③
「愛知陸協広報」50号	3/31	<ul style="list-style-type: none"> ・専務理事のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況及び今年度の反省 ・関係団体の活動状況及び今年度の反省 ・競技会報告(県高校駅伝、県中学駅伝、市町村駅伝、東海学生駅伝、駅伝カーニバル、新春ロード・競歩、全国高校駅伝、都道府県駅伝、読売犬山ハーフマラソン、マラソンフェスティバル等) ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(都道府県駅伝等) ・慶弔報告(具体協他) ・連載 ・ホープさん④ ・クラブ紹介④ ・学校訪問④ ・陸上競技場めぐり⑤

(新見 精三)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

<愛知駅伝>

市の部は、昨年苦戦した名古屋市が4位になり、瀬戸市が8位入賞をしました。レースは第3区から第7区まで、春日井市が単独首位で独走し、大いに盛り上げる展開となりました。町村の部は、1位阿久比町、2位東郷町、3位東浦町、4位武豊町、7位美浜町と上位を名古屋地区が独

占する結果となりました。

区間賞については、市の部では、1区阪井空（瀬戸市・水無瀬中：4年連続）、2区中倉啓敦（名古屋市・愛知高校）、3区池田昌雄（春日井市・内外カーボンインキ：4年連続5度目）が獲得しました。

町村の部では、3区近藤直樹（阿久比町・愛知製鋼：2年連続）、4区椎葉心彩（阿久比町・南部小）、5区鈴木尚登（阿久比町・阿久比中）、6区高井佑太（武豊町・富貴小）、7区古川千歩（阿久比町・主婦）、8区吉田彩乃（東郷町・愛知高）が獲得しました。

<陸上競技教室>

瑞穂・知多の2会場において、合計6日間の日程で行ないました。今年もたくさんの小・中・高校生が参加し、各ブロック別に基礎・基本を中心とした指導が熱心に行なわれました。

12月15日（土）にパロマ瑞穂陸上競技場で行なわれた教室では、7種競技の桐山智衣選手（ヤマダ電機）を迎え、クリニックが行なわれました。

また、今年度の陸上教室では成果発表の場として、2月24日（日）に競技会を行ないました。春のような暖かな日差しのもと、例年より早く競技会出場をすることができた児童・生徒たちは、今年、大きな成果を得られることと期待しております。



桐山智衣選手による陸上教室での体幹トレーニング
(大矢 新吾)

尾張陸上競技協会

今年度の尾張陸上教室は、小学生を対象に12月15日（土）県営一宮総合運動場多目的広場で、また中高生を対象に1月20日（日）知多市運動公園陸上競技場で、計2回開催しました。昨年に続きハンマー投の墨 訓熙選手を始め、多くのトップアスリートがコーチとして参加してくれました。2回目の知多競技場では、雨の中、熱心に指導していただけるコーチに応えようと、中高生の目が輝いていたことが印象に残っています。来シーズンの飛躍が楽しみです。

今年度最後の競技会である第66回尾張駅伝競走大会は、1月13日（日）に県営一宮総合運動場および周辺コースで実施しました。今年度は陸上競技場の公認更新工事とともない一部コースを変更しましたが、天候に恵まれた中での大会でした。結果については下記のとおりです。

一般男子の部 (20.3km)

- 1 むまちゃんず
- 2 愛知教育大
- 3 尾張クラブ

高校男子の部 (20.3km)

- 1 愛知黎明A
- 2 愛知黎明B
- 3 一宮A

中学男子の部 (14.0km)

- 1 宮田A
- 2 犬山南部A
- 3 AC一宮J

高校女子の部 (18.2km)

- 1 愛知黎明
- 2 津島
- 3 津島東

中学女子の部 (14.0km)

- 1 古知野A
- 2 宮田A
- 3 AC一宮J

続いて今回も尾張陸協の運営上の工夫を紹介します。今回は用器具の補助員向けのマニュアルです。用器具補助員の仕事の大きな内容として、ハードルの設置があります。80～400mまでのハードルと3000m障害の大障害と二種類のハードルがありますが、補助員に対して説明する際に一工夫しております。A4版の表の面に80～400mのハードルの扱い方、裏の面に大障害の設置の仕方のマニュアルをプリントし、ラミネート加工を施したもの（写真）を10部用意してあるのです。図入りですので、詳しい説明をしなくてもマニュアルを見れば理解が得られるようになっています。大障害については、トラック外に設置してある水壕までの膨らみの走路を作るための木製器具の並べ方も付け加えてあります。

実のところ、これは尾張陸協独自の工夫ではありません。パロマ瑞穂競技場の倉庫の壁に貼ってあったものをお借りして、用器具担当の審判員が作成したものです。大会ごとに集まってくる補助員は入れ代わりします。初めてという者も大勢います。イメージも湧かないような状況の中でいちいち詳しく全員に理解が行き渡るようにと説明しても、補助員の動きが円滑でなければ、大会の運営に支障を来たしかねません。この10部のマニュアルのお陰で説明時間が短縮され、補助員の動きが円滑なものとなりました。尾張陸協独自の工夫をこれからも生み出して行こうと思っております、良いものがあれば他地区のものをどんどん取り入れて行こうとも思っています。



80～400mH

大障害

今年度公認更新工事中だった県営一宮総合運動場陸上競技場の公認検定は2月11日に実施され、無事終了しました。工事中は多くのアスリートに、ご迷惑をおかけしました。より記録の出やすい環境が整いましたので、尾張陸上

競技協会スタッフ一同、緊張感をもって競技会運営に携わりたいと思っています。何卒ご協力のほど、宜しくお願ひ申し上げます。
(青山 充資)

西三河陸上競技協会

2018年度の行事も皆様のご協力で無事終了することができました。今年度も大活躍していただいた選手・各団体の関係者、審判の方々・役員の方のご協力に感謝しています。

新年早々の都道府県女子駅伝では、西三河の荘司さん・藤中さん・山本さん・小笠原さんと、東三河他の5人全員の安定した走りで、優勝の栄誉を勝ち取ったことは大変嬉しいニュースでした。

私は38年間の長きにわたり、西三河・県の役員をさせていただきましたが、今回の役員改選で後任の先生が快く役職を受けていただくことになり安堵しています。昭和56年2月に、前任者であった東浦先生(当時安城東高校)にいきなり呼び出され、先生が県スポーツ課に転勤されるとの事で、有無を言う暇も無く「頼む」の一言で西三河陸協の秘書を、その日2時間ほどの引き継ぎだけで引き受けることになりました。数日後より県・西三河の登録業務の準備からスタートしました。にわか作りの秘書では当然うまく業務をこなせる訳がなく、数年間はミスばかりでご迷惑をお掛けしました。しかし、西三河の温かい人柄・職場の理解に助けられ、何とかここまでこなすことができました。

当時の文書作成は、すべて超アナログなガリ版刷りでしたので、下手な字で登録案内・各大会要項・各会合の案内状の作成、封筒の宛て名書きなどをした思い出があります。県・西三河の登録業務、大会申し込み事務処理・組み合わせ準備・学校安全会との関係で各市教育委員会への

後援申請・競技場の借用願・弁当の注文・競技場のライン引き・記録用紙の作成・賞状のゴム印押し・招集用紙の作成・大会当日の受付・決算処理など細々とした仕事に追われる日々でした。秘書の18年間には、特に審判部の山内先生・会計の大見先生には、大変お世話になりました。また、大会当日の競技場準備には岡崎城西高校(ライン引きは安城学園)に、毎回大変お手数をかけました。

西三河の秘書をやらせていただくにあたって、当然生徒に迷惑がかかることが懸念されますので、秘書を続けている間は、担任を外してもらえよう学園の理事長にお願いし、しつこく了解してもらったこと、長年郵便物処理に労力を割いていただいた安城学園事務局にも感謝をしています。毎年、数名の特待生を取っている部でしたので、クラブ練習の時間確保を第一にして、陸協関係の仕事は空き時間・家庭を原則に時間配分を考えていました。しかし、校務分掌だけはこちらの思いどおりに行かず、多忙で練習の参加が常でなかった年には、競技結果が思うように伴わなかった選手の保護者からお叱りを受けたことも幾度かありました。その中でも顧問のこのような状況を選手がよく理解してくれ、インターハイ・国体などで活躍してくれたことにも助けられました。

現在の西三河陸協の組織は充実して来ましたが、まだ数名に過重負担が掛かっている手薄な分野もあります。誰かがやらなくてはならない仕事ですので、一人一役の気持ちを持って西三河陸協に関わってくださるようご協力のほど、今後ともよろしくお願ひ致します。(柴田 和秀)

東三河陸上競技協会

今シーズンを終えて

今年度の1年を振り返って、今年も私の独断で東三河陸

ホープさん ④

よしい しゅんすけ
吉居 駿恭 選手 (田原東部中)

30年度の全国中学校選手権において1500mで優勝、3000mで2位の成績を収めました。ジュニアオリンピックでも3000mで優勝するなど素晴らしい結果を残すことができました。とりわけ、1500m優勝は、彼にとって念願の全国制覇であり、喜びもひとしおであったと思います。

順調に結果を残しているように思われがちですが、実はこの裏側には多くの努力の積み重ねと乗り越えなければならない苦しみがありました。1年生の時に参加したジュニアオリンピックでは、前日に高熱を出してしまい4位。2年生のジュニアオリンピックでは、ラスト2mで逆転され涙の2位でした。あと一步というところで手に入れられなかった優勝。また、2年生の3月に故障をし、思うように練習ができないもどかしさ…。そんな苦勞が彼を成長させてくれたと思います。

彼が他の選手と比べて優れているのは、自己管理能力です。目標とする大会までを逆算し、自分で練習メニューを考え、体調管理を行なうことができます。もちろんそれができるのはご家族のしっかりとしたサポートがあるからなのです。部活動の練習で足りないところは、自主的に量を増やして行なうことを当たり前にしてきました。

そしてもう1つは、人間性です。学校ですれ違うときは、どの先生にも挨拶をしています。遠くにいるのを見ただけでも挨拶をする姿も見られます。また、感謝の気持ちを持った行動ができています。全中の3000m予選が終了した後、他の選手が彼のもとに笑顔で自然と集まってダウンを行なっていました。そして、「明日はお互いに頑張ろう」と声を掛け合っていた姿にも、彼の人としての魅力を感じました。苦難を乗り越えて得た全国優勝。その後も謙虚に練習に取り組む先輩を、東部中学校の後輩たちはよい手本として、そして、誇りとして応援しています。

(上田 幸輝)



全中1500m 念願の優勝の吉居選手

上競技協会の10大ニュースを作ってみました。

☆第1位 豊橋市陸上競技場リニューアルオープン

アスリートファーストをコンセプトに、最新のトレーニングマシンや低酸素室などを取り入れたコンディショニングルームや100m 3レーンの屋内練習走路、約550mのクロスカントリーコースを備えた競技場の利用が始まりました。1年間有効の定期利用券の利用者が410名を数え、競技会だけでなく練習場としても有効に利用されています。

☆第2位 全国大会で羽ばたく東三河の小学生

8月18日に神奈川で行なわれた全国小学生陸上交流大会に、田原陸上クラブと豊橋陸上クラブ、JACあつみからリレー1チームと個人2名が出場しました。田原陸上クラブが女子4×100mRで優勝、加藤愛菜選手(豊橋陸上クラブ)が6年女子100mで4位、鬼頭孝征選手(JACあつみ)が男子ジャベリックボール投で8位に入賞しました。

☆第3位 都道府県対抗女子駅伝愛知県3年ぶり2度目の優勝

1月13日に京都で行なわれた全国都道府県対抗女子駅伝には、東三河から4区に古川璃音(豊川高)、5区永井美希(豊川高)、8区林那優(一宮中)、9区鈴木亜由子(日本郵政グループ)の4選手が出場し、3年ぶり2度目の優勝に大いに貢献しました。

☆第4位 全国中学総体で東三河の中学生躍動

8月18～21日に岡山で行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、6校から11名の選手が出場し、吉井駿恭選手(田原東部)が男子1500mで優勝・3000mで2位、奥平恵見歩選手(豊川東部)が女子走高跳で2位に入賞しました。

☆第5位 高校総体で東三河の高校生活躍

8月2～7日に三重で行なわれた全国高等学校総合体育大会に、4校からリレー3チームと個人13名が出場し、柳本匡哉選手(豊川)が男子1500mで4位、相場里咲選手(豊橋南)が女子800mで8位に入賞しました。

☆第6位 ジュニアオリンピック陸上競技大会で吉井選手がA男子3000mで優勝、奥平選手が女子走高跳で3位に入賞。

☆第7位 U20日本選手権で、伊奈颯太選手(豊川)が男子400mHで優勝。

☆第8位 全国高校駅伝で、豊川高校が男女アベック入賞。

☆第9位 箱根駅伝で、小野田勇次選手(高師台中→豊川高→青山学院大)が6区区間新記録の快走。

☆第10位 穂の国豊橋ハーフマラソンが、本年度から公認大会に衣替え。

来年度も今年度以上に、東三河陸上界が盛り上がり、多くの好記録が生まれることを期待しています。



コンディショニングルームで練習する中学生
(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

全国普及者会議では、TSMが事例発表を行ったり、日清カップ全国小学生陸上競技交流大会では、男子5年100mで水野賢仁君(なごや陸上クラブ)が3位(13秒20)、ジャベリックボール投で鬼頭孝征君(JACあつみ)が8位(57m25)、女子6年100mで加藤愛菜さん(豊橋陸上クラブ)が4位(13秒50)、4×100mRで田原陸上クラブが1位(51秒78)、ジャベリックボール投で中村文香さん(TSM)が4位(49m99)の結果を残したりと、本年度も愛知県のチームおよび選手が活躍した1年であった。

全国的にバーンアウト症候群や指導者による行き過ぎた結果主義が問題となってきている。神経系が発達するこの時期に結果を求めるのではなく、長期的な視野に立ち、選手が長く競技を続けられる気持ちの持ち方や、練習の在り方を見直す時期に来ている。

その改革として、来年度から日清カップ全国小学生陸上競技交流大会ががらりと様変わりする。80mHと走高跳、走幅跳、ジャベリックボール投、男女4×100mRが廃止され、コンバインドA(80mHと走高跳)、コンバインドB(走幅跳とジャベリックボール投)、男女混合4×100mRが新たに導入される。これは、様々な競技種目を経験させることによる怪我のリスク回避や、それぞれの種目の運動特性を味わい、陸上競技の楽しさを体験する目的で導入が決まった。

一人でも多くの選手が陸上競技が楽しいとか、やってみたいと思える場を整えていきたい。



全国クロスカントリー交流大会「SQUAD TAKUYA」のメンバー
(佐々木博幸)

中小体連

● 県中学駅伝(11/18:新城)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝は、男子は竜海中学校、女子は矢作中学校が優勝を飾りました。全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行なわれ、竜海中25位、矢作中12位と両チームともに愛知県の代表としてよく頑張ったと思います。

また、愛知県中学駅伝大会の開催にあたっては、東三河支部中体連の関係各位に絶大なるご支援とご協力をいただ

きました。ありがとうございました。

● 日本陸連 U16 東海研修合宿

(1 / 5・6 : 愛知県・パロマ瑞穂)

昨年度に引き続き地元開催となりました。東海4県の選手各40名、指導者各10名の200名が参加し、短距離・ハードル・走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投の6ブロックに分かれて行ないました。この合宿の特徴として、種目練習だけでなく、競技者としての心構えや目標設定方法、種目の基礎理論についての座学を中心としたミーティングを重視していることが挙げられます。指導者間の情報交換も含め、大変有意義な練習会でありました。

また、競技場が改修中であつたにもかかわらず、陸協から関係各所の方々に調整をお願いしていただいたことで、本競技場で実施することができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

● 次年度に向けて

2019年度は、大阪で全中が開催されます。中体連としては、過去最高の人数である100名以上の出場を目標にしていきたいと考えています。そのためには、各学校の指導を中心として、さらに各地区の練習会や全県での協力体制が不可欠であると考えます。陸協ジュニア部で実施していただいているジュニア強化練習会、さらに各地区の陸上教室、練習会を柱として大きな成果を上げられるよう、多方面での情報を共有しながら選手強化を行なっていきたいと考えています。

今年度、ジュニア強化部の組織の中に、新たに情報戦略部を立ち上げました。選手や指導者に対して練習に関する情報や全国大会に関する情報、陸上に関する情報を様々な角度から発信し、県全体でのレベルアップを目標にしていきたいと考えています。今後、より良い活動にしていきたいと思っておりますので、こんな情報がほしい、こんなデータがほしいなど、多くのご意見を頂けるとありがたいと思っております。

(佐橋 弘晃)

高体連

2019年度に向けて

平成30年度は東海地区三重県で全国総体が開催されました。酷暑の中での大会となり、選手はもとより、運営側の三重県の方々も大変な大会になりました。久しぶりに個人の全国チャンピオンが誕生しませんでした。中京大中京高校の女子が総合で初優勝を飾りました。チーム力の層の厚さを実感しました。日頃からの努力に、心から敬意を払いたいです。全体としては昨シーズン同様、少し地味な前半戦となりました。インターハイへの出場者数もほぼ昨年度と同数でしたが、「全体的におとなしい」印象でした。

秋のシーズンは、東海高校新人が静岡県開催で実施されました。久しぶりの草薙競技場での開催です。今年も愛知県の活躍が目立ちました。特に女子は、決勝種目の半分強は必ず愛知県勢でした。十数年前には「東海を制する者は全国を制する」と言われておりましたが、この言葉の復活を皆さんで実行していきたいと思っております。

2019年度東海総体は、静岡スタジアムエコパ競技場で

開催されます。2019年度は愛知県大会から東海総体までの期間が例年より若干長いので、うまく調整を実施し、よりよい成果が出ることを期待しています。2019年度は南九州地区(沖縄県)での全国総体開催です。多くの選手が沖縄の地に集結し、「愛知県ここにあり」を示したいと思っております。

高校駅伝は女子の記念大会になりました。愛知県からは男子豊川高校、女子は昨年に続き、県大会でのデッドヒートを制した、豊川女子高校が昨年度の雪辱を果たし、出場権を獲得しました。また、東海枠で光ヶ丘女子高校も出場しました。豊川高校が男子8位、女子6位に輝き、ダブル入賞しました。県内のレベルは依然として高水準を保っています。各学校が切磋琢磨し、全国優勝を期待したいと思います。2019年度は男子が記念大会になります。愛知県から男子2校の出場を心から期待します。

2020年東京オリンピックもいよいよ秒読みになってきます。女子リレーナショナルチームに至学館高校井戸選手が選ばれ、強化練習会に参加しています。また、オリンピック育成選手にも3名が選ばれています。多くの選手が目標として、一人でも多くの選手が東京を目指していけるように、高体連としても応援していきたいと思っております。

2019年度が愛知県高体連にとって、活気ある素晴らしい年になるように、頑張っていきたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。(石井 哲郎)

高体連定通部

2019シーズンに向けて



今年の定通日本一も「やっぱり愛知」でありますように…

シーズンインが近づき、「また始まるなぁ」と心躍る時期になってきました。冬場の練習の継続、モチベーションの維持などこの時期の定通の課題は毎年のとおりですが、やはり今年はどうな活躍を見せてくれるのだろうと楽しみになってきます。私の勤務校である起工業の部員は現在3名。走高跳で1m70を跳びたい、走幅跳で全国優勝したいなど目標をもって継続的に練習に取り組んでいる生徒を見て嬉しく思います。競技力はともかく、限られた環境で何かに打ち込んでくれている。そんな生徒の夢・目標を達成するために、チームワーク抜群の定通スタッフ全員が共に追い求めていきたいと思っております。追い求めた先に全国大会男女総合5連覇があるように思います。

さて、高体連定通部では各大会の審判編成に苦慮しております。県定通総体は6月9日(日)、県秋季大会は10月13日(日)、共に知多運動公園陸上競技場で開催予定です。顧問の先生、定通にお勤めだった先生方、生徒OBなどを中心に審判編成をしています。大変不足しています。審判協力のできる方を求めています。お声がけをさせていた

できますので、よろしくお願ひします。

最後に「定通制に進学しても陸上競技はできます！」定通制へ進学をする中学生、先生方にこの場をお借りして昨年に引き続きアピールをさせていただきます。(野口 武則)

学 連

2020年大会に向けた2019シーズンの展望

2018年シーズン終盤は、名城大学の活躍が他を圧倒していた。本誌第46号では、名城大学の全日本大学女子駅伝(仙台)2連覇達成を紹介したが、そのコンディションを保ちながら年末(12/30)の富士山女子選抜駅伝でも初優勝を飾った。9月に行なわれた日本インカレの1500m、5000m、10000mで優勝し、その高いパフォーマンスを維持しながらロードレースにシフトした名城大の選手たちを指導する米田勝朗監督のコーチングは、駅伝偏重傾向にある学生陸上界に一石を投じるようなシーズンであったと評価できるであろう。

2019年シーズンの学生陸上競技界は、ユニバーシアード大会(ナポリ、以下:ユニバ)大会を控えており、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を狙う学生アスリートたちにとっては、世界を知る機会でもあろう。ユニバの選考は既に始まっており、静岡国際(5/3)を最後に各種目の派遣記録突破者の中から選出されることになっている(表1)。この先、新入生や大学院へ進学する選手で記録突破者が加わることも予測されるため、選考争いは更に厳しくなるであろう。学生陸上に携わる立場としては、2020大会のレガシーをどのような形で次世代のアスリートへ継承していくかについても目を向ける時期でもある。新たに東海学生記録を樹立した選手たち(表2)が2024年や2028年大会で活躍できるような強化・普及策が各競技団体に求められるであろう。

表1: 第30回ユニバーシアード(2019/ナポリ)候補者(派遣標準記録突破者)※学年は2018年度

選手名(所属/学年)	種目	記録
【男子】		
高橋 周治(愛知医大5年)	100m	10.41
東海学生記録保持者(10.27)		
野村 勇輝(中京大2年)	400m	46.35
豊田 将司(東海学園大2年)	やり投	77.52
【女子】		
和田 有菜(名城大1年)	1500m	4.16.76
高松智美ムセンビ(名城大1年)	1500m	4.16.83
	5000m	15.26.76
東海学生記録保持者(3000m/5000m)		
加世田梨花(名城大2年)	5000m	15.37.06
南部 琉璃(中京大2年)	棒高跳	4.09
東海学生記録保持者(4.09)		
中田 寛乃(愛知教育大3年)	やり投	56.14

表2: 2018年更新された東海学生記録

選手名(所属/学年)	種目	記録
中山 昂平(中京大院2年)	三段跳	16.53
日本IC2018優勝、日本選手権5位		
石山 歩(中京大4年)	やり投	79.44

日本選手権8位、学生歴代3位、日本歴代9位		
高松智美ムセンビ(名城大1年)	3000m	8.58.63
	5000m	15.26.76
日本IC優勝、日本選手権優勝(1500m) アジアジュニア2位(1500m)		
南部 琉璃(中京大2年)	棒高跳	4.09
日本選手権優勝、日本IC5位		



全日本大学女子駅伝2連覇の名城大学チーム

(黒須 雅弘)

実業団

今シーズンを終えて



日本実業団対抗駅伝競走

トヨタ自動車ニューイヤー駅伝3位で悔しいゴールの松本選手



クイーンズ駅伝6位の豊田自動織機チーム



シカゴマラソン2時間7分57秒で福岡国際マラソン2時間7分27秒ゴールする藤本選手

で優勝した服部選手

2018年度前半のトラックシーズンでは、日本選手権にてトヨタ自動車の湯上剛輝選手が円盤投で62m16の日本新、棒高跳の山本聖途選手は5m70の好記録で2連覇等と、活躍が目立ちました。

後半の駅伝・マラソンシーズンでは、女子の豊田自動織機がクイーンズ駅伝で6位と健闘。ニューイヤー駅伝では優勝を狙っていたトヨタ自動車が3位となり、悔しい結果となりました。

マラソンでは、トヨタ自動車の藤本拓選手がシカゴマラソンで2時間7分57秒、服部勇馬選手が福岡国際マラソンで2時間7分27秒での優勝。ともに9月に開催され

る東京オリンピック予選となるMGCの出場資格を獲得し、オリンピック出場に道筋をつけました。

2019年度は、トラック&フィールド及び長距離シーズンでは愛知県実業団の底力を見せつけたいと思います。

(中村 博之)

マスターズ陸上

愛知マスターズ陸上競技連盟(通称愛知マスターズ)の2018年度最大のイベントは、11月18日(日)に愛・地球博記念公園で行なわれた第31回都道府県対抗・全日本マスターズ駅伝競走大会でした。

<対抗の部 男子>では愛知(1区:加藤 聡選手、2区:下川勝彦選手、3区:中野哲也選手、4区:池田昌雄選手、5区:近藤直樹選手、6区:辰巳慶宏選手)が3連覇し、<対抗の部 女子>では強豪兵庫に次ぐ2位の成績(1区:古川千歩選手、2区:長坂恵子選手、3区:風岡さやか選手、4区:坂川真由美選手、5区:後藤陽子選手)と、愛知県勢の活躍が目立った大会となりました。ご協力に感謝します。



活躍した愛知県選手たち

さて、2019年は、愛知マスターズ選手権大会を5月19日(日)に、記録会を4月14日(日)、6月22日(土)、8月11日(日)、8月31日(土)と、いずれもウェーブスタジアム刈谷で予定しています。多くの選手の参加をお待ちしております。

(永山 宏智)

OB・OG会

平成最後の新春懇親会は、1月17日から1泊2日で知多郡南知多町にある「まるは食堂旅館」で行ないました。伊勢湾を望む絶景のロケーションと新鮮な魚料理、名物のエビフリャ〜などに、参加した30名の会員全員が堪能しました。会では、先に行なわれた全国都道府県対抗女子駅伝の優勝、週末に予定されている同男子駅伝の激励と話は尽きることなく続き、日にちをまたいだ方もあったようです。

翌早朝は、隣接の「うめの湯」に浸かり東の空から昇った日の出は、年の初めに最高の贈り物をいただいた一瞬でした。朝食後、今年も会員の皆さんがますますお元気で



おいしい料理で懇親を深めた会員の皆さん

活躍されることをお祈りし解散しました。

本会は随時新会員を募集しております。入会希望の方は前会報記載の地区世話人までご連絡ください。お待ちしております。

(水野 久)

競技会報告

第58回中部実業団対抗駅伝

2018年11月18日(日)

新コース: 渥美半島 はなとき通り発着 7区間 80.5km

成績(本県分のみ)

- | | | | | |
|---|--|---------|---|---------------|
| 1 | トヨタ自動車 | 3.54.56 | | |
| | (藤本 拓・ニコラス コシンベイ・早川 翼・窪田 忍・松本 稜・西山雄介・大石湊与) | | | |
| 2 | トーエネック | 3.58.45 | 6 | トヨタ紡織 4.03.59 |
| 3 | 愛知製鋼 | 4.00.24 | 7 | 中央発條 4.06.42 |
| 4 | 愛三工業 | 4.01.02 | | |

第38回全日本実業団対抗女子駅伝

2018年11月25日(日)

松島町文化観光交流館前~弘進ゴムアスリートパーク仙台(宮城コース)
(6区間 42.195km)

成績(本県分のみ)

- 第6位 豊田自動織機 2.16.53
(萩原歩美・山本菜緒・林田みさき・ヘレン エカラレ・沼田未知・前田梨乃)

- 区間賞 2区 山本菜緒(豊田自動織機) 12.14
3区 ヘレンエカラレ(豊田自動織機) 10.54 区間新

第13回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2018年12月1日(土) 愛・地球博記念公園 9区間 28.7km

順位	市の部		町村の部	
	市	部	町村	部
1	豊田	1.31.17	阿久比	1.35.08
2	豊橋	1.32.34	東郷	1.37.36
3	豊川	1.32.58	東浦	1.40.15
4	名古屋	1.33.12	武豊	1.41.10
5	岡崎	1.33.13	飛鳥	1.41.24
6	田原	1.33.18	幸田	1.42.37
7	西尾	1.33.37	美浜	1.43.34
8	瀬戸	1.34.05	設楽	1.43.36
9	江南	1.34.25	蟹江	1.43.44
10	安城	1.34.29	大口	1.45.52

区間賞 (○数字は区間を示す)

市の部

- ①阪井 空(瀬戸)
②中倉 啓敦(名古屋)
③池田 昌雄(春日井)
④松原 帆南(安城)

町村の部

- ①前田 彩花(飛鳥)
②住原 聡太(幸田)
③近藤 直樹(阿久比)
④椎葉 心彩(阿久比)

- ⑤吉居 駿恭(田原) ⑤鈴木 尚登(阿久比)
- ⑥柴田 凌我(豊橋) ⑥高井 佑太(武豊)
- 渡邊陽奈太(安城)
- ⑦荘司 麻衣(瀬戸) ⑦古川 千歩(阿久比)
- ⑧藤中 佑美(豊田) ⑧吉田 彩乃(東郷)
- ⑨松井 将器(豊田) ⑨山本 将平(幸田)

モリコロ賞
市の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	半田	32	23	9	1.37.56
2	安城	18	10	8	1.34.29
3	豊明	25	19	6	1.37.31

町村の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	飛鳥	9	5	4	1.41.24

2018 愛知陸協駅伝競走大会
2018年12月8日(土) 愛・地球博記念公園3km周回コース

成績

一般男子(5区間21km)

- 1 I.A.R.C 1.12.05
(轟 暁光・牧野将大・佐藤 佑・石原 昌・杉村智人)

- 区間賞 1区 轟 暁光(I.A.R.C) 20.32
2区 牧野将大(I.A.R.C) 21.06
3区 佐藤 佑(I.A.R.C) 10.01
4区 石原 昌(I.A.R.C) 10.02
5区 杉村智人(I.A.R.C) 10.24

一般女子(4区間15km)

- 1 南山大 1.03.54
(飯塚寿音・高石真央・山田桃子・岩渕史奈)

- 区間賞 1区 飯塚寿音(南山大) 25.43
2区 高石真央(南山大) 12.09
3区 山田桃子(南山大) 11.56
4区 岩渕史奈(南山大) 14.06

高校男子(5区間21km)

- 1 愛知黎明 1.08.10
(小田龍意・松元 響・渡邊大誠・中村太一・野田将吾)
- 2 名経大高蔵 1.09.41 5 津島 1.13.06
3 岡崎城西 1.09.42 6 豊明 1.13.13
4 豊橋南 1.10.24

- 区間賞 1区 鈴木雄大(愛産大工) 19.24
2区 松元 響(愛知黎明) 19.32
3区 深谷涼太(豊明) 9.25
4区 中村太一(愛知黎明) 9.32
5区 桑原 陸(豊橋南) 9.38

高校女子(4区間15km)

- 1 愛知黎明 57.40
(服部若菜・山口郁美・山下真里奈・加島菜海)
- 2 岡崎城西B 58.04 5 津島A 59.31
3 岡崎城西A 58.19 6 横須賀 59.35
4 豊橋南 59.15

- 区間賞 1区 服部若菜(愛知黎明) 22.09
2区 藤堂綾乃(津島A) 10.56
3区 山下真里奈(愛知黎明) 11.18
4区 鈴木彩賀(豊橋南) 11.13

中学男子(4区間12km)

- 1 TSM 39.45
(吉村聡介・広井隆寿・加藤草太郎・平井 翼)
- 2 竜海A 39.50 5 東海 40.35
3 葵A 39.53 6 城北A 40.36
4 岡崎南A 40.08

- 区間賞 1区 吉村聡介(TSM) 9.28
2区 広井隆寿(TSM) 9.44
3区 樋口耕平(竜海A) 9.50
4区 太田悠斗(岡崎南A) 9.50

中学女子(4区間12km)

- 1 竜海A 45.06
(天野花音・壁谷裕奈・西島沙羅・平岡那奈)
- 2 矢作北A 45.48 5 TSM 46.39
3 新香山A 45.56 6 葵A 47.14
4 SQUAD-TAKUYA 46.27

- 区間賞 1区 猪熊紗伎(TSM) 10.56
2区 壁谷裕奈(竜海A) 10.39
3区 山川紗季(SQUAD-TAKUYA) 11.05
4区 石川瑠菜(SQUAD-TAKUYA) 11.07

第80回東海学生駅伝対校選手権大会
2018年12月9日(日) コース：知多半島一周 7区間63.5km

男子成績(本県分のみ)

- 2 名大A 3.18.25 6 愛教大 3.27.55
3 愛工大 3.21.02 7 東海学園大 3.28.52
5 至学館大 3.27.11 8 中京大 3.29.37

- 区間賞 1区 西尾文吾(名大A) 25.47 区間新
4区 塚本亮司(名大A) 26.47
5区 國司寛人(名大A) 32.14

第12回東海学生女子駅伝対校選手権大会
2018年12月9日(日) コース：知多半島半周 5区間26.6km

女子成績(本県分のみ)

- 1 名城大A 1.29.01
(加藤綾華・青木 和・玉城かんな・松浦佳南・小森星七)
- 2 中京大A 1.31.01 5 愛教大 1.38.08
4 東海学園大 1.37.31 6 至学館大 1.39.03

区間賞	1区	加藤綾華 (名城大 A)	11.53
	2区	青木 和 (名城大 A)	13.51
	3区	玉城かんな (名城大 A)	19.03
	4区	松浦佳南 (名城大 A)	15.53
	5区	小森星七 (名城大 A)	28.21

2	野間 凜々 (瑞陵)	28.24
3	加藤 和瑚 (西春)	28.41

第26回全国中学校駅伝大会

2018年12月16日(日)
 希望が丘文化公園スポーツゾーン特設コース
 男子の部(6区間18km) 女子の部(5区間12km)

男子成績(本県分のみ)

第25位	岡崎市立竜海	59.00
(伊藤稔基・渡辺響介・西野 成・松浦志龍・十河拓平・山口浩崇)		

女子成績(本県分のみ)

第12位	岡崎市立矢作	42.20
(磯部早良・竹田実紗・渡邊柚那・藤田栞野・杉浦花音)		

男子10000m

1	中川 大輔 (愛知陸協)	31.56.11 GR
3	澤原 雄一 (庄内 RT)	33.28.98

女子10000m

1	中山 淳子 (愛教大ク名)	40.39.04
---	---------------	----------

高校男子10000m

1	深谷 涼太 (豊明)	33.28.98
2	杉本 輝 (津島)	34.49.04
3	服部 宗馬 (津島)	35.32.93

高校女子10000m

1	藤堂 綾乃 (津島)	38.41.09
2	山田 小雪 (津島)	39.21.68

中学男子3000m

1	林 大雅 (愛知陸協)	10.13.47
---	-------------	----------

中学女子3000m

1	大原理恵子 (AC一宮J)	11.53.21
---	---------------	----------

第30回全国高校駅伝(女子)

2018年12月23日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 5区間21.0975km

成績(本県分のみ)

6位	豊川	1.08.16
(古川璃音・荻野実夕・水谷怜愛・浅田遥香・永井美希)		
20位	光ヶ丘女	1.10.21

第69回全国高校駅伝(男子)

2018年12月23日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 7区間42.195km

成績(本県分のみ)

8位	豊川	2.05.19
(鈴木竜太郎・柳本匡哉・関口雄大・大上颯麻・小林亮太・山盛翔大・岩城亮介)		

第50回元旦競歩・長距離競技会

2019年1月1日(火) パロマ瑞穂スタジアム・付設長距離競歩路

成績(本県分のみ)

一般男子20km 競歩		
2	吉原 政人 (愛知陸協)	1.38.18
3	尾崎 雄大 (トヨタ自動車)	1.58.29

一般男子10km 競歩

3	中尾 圭 (愛知マスターズ)	54.58
---	----------------	-------

一般女子10km 競歩

2	中川 晴子 (名古屋大)	53.25
---	--------------	-------

高校男子10km 競歩

3	荒巻 祐弥 (西春)	48.27
---	------------	-------

高校女子5km 競歩

1	山下 桃子 (天白)	26.33
---	------------	-------

第63回全日本実業団駅伝

2019年1月1日(火) 群馬県庁発着 7区間100.0km

成績(本県分のみ)

第3位	トヨタ自動車	4.52.34
(早川翼・ニコラス コシンバイ・大石港与・藤本拓・服部勇馬・窪田忍・松本稜)		
第17位	トーエネック	4.56.41
第19位	愛知製鋼	4.57.51
第21位	トヨタ紡織	4.58.17
第30位	愛三工業	5.02.13
第34位	中央発條	5.05.59

区間賞	2区	ロジャースチュモケモイ (愛三工業)	22.12
	5区	服部 勇馬 (トヨタ自動車)	45.47

第8回愛知競歩競技会

2019年2月11日(月) 知多運動公園陸上競技場

成績(太字は愛知登録)

一般・高校男子5000m 競歩		
1	馬淵 丈 (京都大)	22.16.05
2	谷口 大和 (猿投農林高)	22.28.68
3	吉野 明道 (千種高)	22.29.25

一般・高校女子5000m 競歩

1	森田 蘭世 (桂高)	25.35.43
2	林 杏奈 (智辯学園奈良高)	25.45.16
3	加藤 和瑚 (西春高)	27.39.25

一般・高校男子10000m 競歩

1	江藤 慎改 (至学館大)	45.06.27
---	--------------	----------

- 2 吉原 政人 (愛知陸協) 45.21.87
- 3 松永 幸大 (名古屋大) 45.47.01

一般・高校女子 10000m 競歩

- 1 柴田 葵 (安城高) 53.03.39

第41回読売犬山ハーフマラソン

2019年2月24日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

(写真提供：読売新聞社)



ハーフ女子優勝の松浦穂乃加選手 スタートする参加者たち

今年も内田防災公園を発着として、10kmの部を含めて総勢1万人を超す参加者で実施されました。ご協力ありがとうございました。

大会成績結果 (太字は愛知登録 GR:大会記録)

登録ハーフ男子

- 1 小原 拓未 (駒澤大学) 1.03.52
- 2 川瀬 翔矢 (皇學館大) 1.03.54
- 3 蝦夷森章太 (東洋大) 1.03.58
- 4 四辻 剛 (トヨタ SC) 1.04.00
- 5 八巻 雄飛 (SGH グループ) 1.04.04
- 6 林 竜之介 (SGH グループ) 1.04.09

登録ハーフ女子

- 1 杉浦穂乃加 (中京大学) 1.13.31
- 2 花野 桃子 (日本体育大学) 1.14.23
- 3 一瀬 美結 (日本体育大学) 1.14.54
- 4 平野 文珠 (日本体育大学) 1.15.16
- 5 李 淑貞 (三星電子) 1.15.36
- 6 湯澤ほのか (上伊那郡陸協) 1.16.07

登録10km男子

- 1 河合 代二 (トーエネック) 29.01 GR
- 2 竹内 大地 (トーエネック) 29.35 GR
- 3 中川 智春 (トーエネック) 29.53
- 4 飯沼 健太 (SGH グループ) 30.02
- 5 上村 直也 (皇學館大学) 30.05
- 6 仲洞 将 (中京院中京高校) 30.17

登録10km女子

- 1 和田 帆香 (長野東高校) 33.50
- 2 加藤 綾華 (名城大学) 33.56
- 3 井上 葉南 (名城大学) 34.17
- 4 小森 星七 (名城大学) 34.20
- 5 塩崎 葵 (名城大学) 34.41
- 6 金 花映 (三星電子) 34.51

名古屋ウィメンズマラソン

2019年3月10日(日) ナゴヤドーム発着

(写真提供：中日新聞社)



日本人1位を争う
岩出選手と福士選手

各々の目標目ざして
スタート

今年も、8回目の「マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2019」が行なわれ、合わせて36133名が出走しました。中でもウィメンズマラソンは、東京オリンピック選考会の「MGC」出場権獲得を目ざして熱戦が繰り広げられました。後半雨となりましたが、沿道の応援に応じて8~12位の5名が獲得するという熱い戦いとなりました。

各方面のご協力に深く感謝申し上げます。

ウィメンズマラソン (エリート部)

- 1 ヘラリア・ジョハネス (ナミビア) 2.22.25
- 2 ビシリン・ジュペケショ (ケニア) 2.22.58
- 3 バラリー・ジュメリ (ケニア) 2.23.01
- 4 メセレト・デファー (エチオピア) 2.23.33
- 5 岩出 玲亜 (アンダーアーマー) 2.23.52
- 6 モニカ・ジェブコエチ (ケニア) 2.23.59
- 7 サラ・ドッセーナ (イタリア) 2.24.00
- 8 福士加代子 (ワコール) 2.24.09
- 9 上原 美幸 (第一生命グループ) 2.24.19
- 10 前田 彩里 (ダイハツ) 2.25.25
- 11 谷本 観月 (天満屋) 2.25.28
- 12 池満 綾乃 (鹿児島銀行) 2.26.07

ホイールチェアマラソン (クォーター)

- 1 土田和歌子 23.42
- 2 喜納 翼 24.08
- 3 安川祐里香 29.59

愛知選手権女子マラソン

2019年3月10日(日) ナゴヤドーム発着

- 1 沼田 未知 (豊田自動織機) 2.38.30
- 2 中村 瑠花 (小島プレス) 2.41.21
- 3 坂川真由美 (AC一宮) 2.57.28
- 4 野田ひろみ (庄内 RT) 2.57.42
- 5 米谷 利佳 (庄内 RT) 3.02.33
- 6 松野 真帆 (安城快足 AC) 3.03.12

名古屋シティマラソン 2019年3月10日(日) ナゴヤドーム発



シティマラソンにも多数の参加者

ハーフ男子	1	St Lawrence Ben	1.03.30
	2	酒井 一	1.05.33
	3	伊藤 太樹	1.07.54
ハーフ女子	1	小田 恵梨	1.21.08
	2	鈴木 水悠	1.28.29
	3	松井恵里奈	1.34.49
クォーター男子	1	深谷 健斗	32.14
	2	辰巳 慶宏	33.23
	3	小島 慎也	33.52
クォーター女子	1	近藤 菜々	40.39
	2	伊東 奈美	41.21
	3	福井 小夏	41.52

理事会等会議報告

○12月理事会 30年12月4日(火) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝の選手選考について
- ②各種栄章候補者について
- ③愛知県体育協会被表彰者について
- ④審判員昇格候補者について
- ⑤来年度からのナンバーカードについて
- ⑥その他

2 報告事項

- ①平成30年度日本陸連主要競技会について
- ②各種大会結果報告
- ③陸連関係会議報告
 - ・理事会
 - ・全国強化責任者会議
 - ・全国検定会議
 - ・全国普及育成担当者会議
- ④各専門委員会報告
- ⑤その他

○1月理事会 31年1月25日(金) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成31年度年間競技日程について
- ②その他

2 報告事項

- ①マラソンフェスティバルについて
- ②読売犬山ハーフマラソンについて
- ③各専門委員会報告
- ④各関係団体からの報告
- ⑤その他

○2月理事会 31年2月18日(月) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①役員定年延長について
- ②専門委員会規定の見直しについて
- ③平成31・32年度一般財団法人愛知陸上競技協会役員について
- ④平成31年度年間競技日程について
- ⑤その他

2 報告事項

- ①マラソンフェスティバルについて
- ②読売犬山ハーフマラソンについて
- ③各専門委員会報告
- ④各関係団体からの報告
- ⑤その他

(水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

平成30年度愛知県体育協会表彰

日時 平成31年3月12日(火) 午後3時30分

場所 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

・功労賞

伊藤 朝一 大田 一弘

・優秀選手賞

(国際競技会優秀成績)

山口 浩勢 丸尾 知司 山西 利和

市川 華菜 鳥居 風樹 山本 聖途

湯上 剛輝 風見 尚

(公認日本記録樹立)

湯上 剛輝 山口 浩勢

(日本選手権大会等優勝)

山本 聖途 湯上 剛輝 墨 訓熙

服部 弾馬

(水野 隆夫)

お く や み

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名 逝去年月 支部名

竹内 猛 30・11 名古屋

今泉 良三 31・2 東三河

編集後記

◇平成最後の都道府県駅伝女子チーム2度目の優勝や、各層の駅伝チーム等の大活躍に大きな感動と勇気をもたらした。◇MGC資格5名獲得とウィメンズマラソンも大成功。◇新しいシーズンへの期待も高まる。◇寄稿に深謝。

編集委員

大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信 竹前 正直
茶谷 和彦 新見 精三 野口 一昭 兵藤 重二
山下ゆかり